

火 災 予 防

回 覧

夏といえば、レジャーの季節です。バーベキューや花火など、屋外で火を使用する機会が増えることが予想されます。花火、カセットこんろなどの製品は、使い方を誤ると大きな事故につながる場合がありますので製品を正しく使用し、安全に楽しく夏を過ごしましょう。

また、エアコンなどの電気製品は使用する前に動作確認を行うなど、日ごろから火災予防に心がけましょう。

① 花火は、ルールとマナーを守って楽しく遊びましょう

夏の風物詩といえば「花火」、子どもたちにとっても楽しい季節となりました。

しかし、気軽に楽しめる花火も遊び方を間違えると火災や事故に繋がりがねません。

火災や事故を起こさないよう十分に注意し、楽しい夏の思い出にしましょう。

注意事項

- (1) 花火の説明書をよく読み、注意事項を必ず守る。
- (2) 風の強いときは、花火をしない。
- (3) 水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける。
また、ゴミは放置せずに持ちかえる。
- (4) 子供だけでなく、大人と一緒に遊ぶ。
- (5) 人の迷惑にならない場所と時間を選ぶ。
- (6) 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ。
- (7) 公園など、火気使用が禁止されている場所では花火をしない。

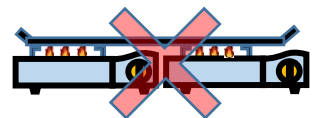


② キャンプやバーベキューでの火災事故に注意しましょう

バーベキューやキャンプなどで火傷をしたり、火が着衣に燃え移るといった事故が起きています。ガストーチ、着火剤、カセットこんろなどを使用する際は、下記の点に注意しましょう。

注意事項

- (1) カセットこんろのサイズにあった調理器具を使用する。
- (2) 建物や可燃物の近くでガスバーナーを使用しない。
- (3) ガスバーナーを使用した後は、安全な場所で冷ます。
- (4) 風の強いときは、屋外での火気の使用は中止する。
- (5) 製品を使用前に取扱説明書を十分に確認する。
- (6) ゼリー状の着火剤を継ぎ足して使用しない。
- (7) 消毒用アルコールは火の近くで使用しない。
- (8) 着衣に着火したら、慌てて動き回ったりせず、地面に倒れ転がり、消火する。
- (9) 消火用の水バケツを付近に用意する。



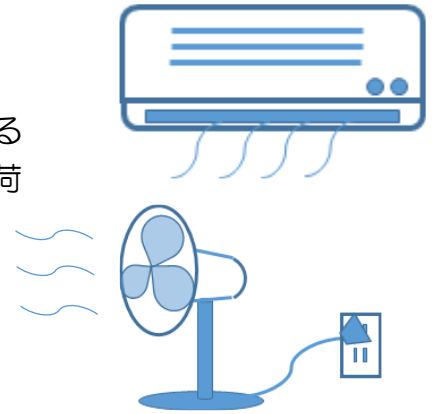
カセットこんろに合わない調理器具の使用や、並べて使用した場合、カセットボンベ部分が熱せられ破裂することがあります。



③ 夏場に使用する電気器具からの出火防止対策

夏場に使用する電気器具で、購入から何十年と経過しているものは、経年劣化によりモーター部分やコンデンサ部分に負荷がかかり、出火する恐れがあります。

- ・前に比べて音が大きい
- ・動きが悪い、不規則
- ・冷えない
- ・焦げ臭い
- ・本体が異常に熱い
- ・スイッチを入れても動かない



上記のような症状がある場合には、使用を中止してコンセントを抜き、近くの電気店、メーカーのホームページやお客さま相談センターに問い合わせをしてください。

しばらく使用していなかった電気器具は、コードが痛んでいないか、本体に損傷がないか、ほこりが付いていないかなど、使用する前または定期的に確認をお願いします。

④ お盆の時期に要注意！仏壇からの出火

お盆は先祖を供養する大切な行事です。この時期は、お墓や仏壇などでローソクや線香を焚いたり、火を取り扱う機会が増えます。ちょっとした不注意から火災を発生させないように今一度下記の点に注意しましょう。

注意事項

1 仏壇、お墓参りでの注意点

- (1) ローソクの火をつけたままその場を離れない。
- (2) ローソクや線香の周りに燃えやすいものを置かない。
- (3) ローソクはしっかり燭台に刺し、不安定な状態で使用しない。
- (4) 燭台に水分が残ったまま使用しない。
- (5) 座布団や敷物などを防災製品にする
- (6) お墓掃除でた刈草やごみは焼却せずに持ち帰る。



2 ローソクの火が飛ぶ現象

燭台に水分が残ったまま使用すると、燃え尽きる際に溶けたロウの膜に閉じ込められた水分が沸騰し、火のついた芯を飛ばすことが稀にあります。

燭台を洗淨した際は、しっかりと乾燥させてから使用して下さい。

⑤ トラッキング現象による火災に注意

電気火災のうち、プラグの接続部分にホコリが溜まり、ショートして出火する現象をトラッキング現象といいます。トラッキング現象は、湿度の高い今の季節に発生しやすいため、冷蔵庫などのコンセントを確認し、出火防止に心がけましょう。

